須坂市消防団広報紙
さくら
2008（平成20年）4

自治体消防制度60周年記念式典での演奏（日本武道館）

消防団がどんな活動をしているかを知ってほしい

須坂市消防団長
依田（よだ）　浩明（ひろあき）

4月から新たに消防団長に就任しました。これまで消防団の多くの先輩方が育んできた「自分達の地域は自分たちで守る」という消防精神を大切にし、地域に根ざした消防団をさらに発展させていきたいと思います。

その試みの一つとして、このたび消防団の広報紙「さくら」を発行することとなりました。消防団を多くの市民の皆様に知っていただき、消防団員が何を思い、どんな活動をしているかをわかっていただければ幸いです。

消防団は地域あってこその消防団であり、地域に期待され、信頼される存在でありたいと思います。あたたかいお言葉をかけていただければ幸いです。

これからも消防団に深いご理解とご協力を何卒よろしくお願い申しあげます。

生き生きとした紙面づくりを期待します

前須坂市消防団長
塩崎（しおざき）　貞夫（さだお）

広報紙の発行は、身近で活躍する消防団員が、いつ、どこで、どんな活動をしているのか、広く市民の皆様に知っていただく良い手段だと思います。消防団の皆さんのご苦労も多かったと思いますが、常に前向きに生き生きとした紙面づくりを期待します。

広報紙発刊にあたって

須坂市消防長
太田（おおた）　邦晴（くにはる）

広報紙の創刊おめでとうございます。消防団員の皆様には生業をお持ちの傍ら、有事の際に迅速に消防活動をいただいており、誠に感謝申しあげます。消防団をこの広報紙で市民の皆様にお知らせいただき、より円滑な消防団活動の推進をご祈念いたします。

消防団とは

消防団員は、昼夜を問わず仕事の傍ら、火災や水害等の災害発生時に消防活動を行います。火災時には、消火活動はもちろんのこと、残火処理や再燃防止を行います。

水害時には土嚢積みで、河川の逸水、堤防の決壊防止などを行います。その他災害の状況に応じて人命、財産を守るために活動しています。

こうした災害に備えて、消防操法や水防工法など各種訓練も行っています。

災害を未然に防ぐために地域のみなさんへの防災広報などの予防活動も行っています。

とかく消防団は、飲んでばかりと思われがちですが、そんなことはありません。私たち消防団は、「あなたや、あなたの大切な家族、地域を守りたい」そんな思いを抱いている人間の集まりなんです。

11月　第23回音楽隊定期演奏会
メセナホール満員のお客様の中で開催されました

4月　山林火災訓練
豊丘町において空中消火訓練が行われました

6月　第29回須坂市消防技術大会（須坂小グラウンド）
上）ラッパ吹奏
下）小型ポンプ操法

5月　須高消防協会主催
水防工法実技講習会
写真は月の輪工

4月　視察研修
福井県永平寺町消防団との意見交換会

写真で見る　平成19年の主な活動

8月　第49回長野県ポンプ操法大会（喬木村）
須高消防協会代表として第６分団が出場しました

1月　消防出初式（須坂小グラウンド）
天気が心配されましたが、無事挙行されました

須坂市消防団の60年

昭和23年3月7日に消防組織法が施行され、これまで警察の管轄下にあった消防団（警防団）は市町村に委譲されました。これが自治体消防制度の始まりで、今年でちょうど60周年となりました。

当時の須坂町消防団は、八個分団、定員５００人でした。昭和29年に日野村と豊洲村が須坂町に合併し、須坂市が誕生、須坂市消防団に改称されました。また、翌30年に井上村、高甫村が須坂市と合併し三十個分団、定員１３００人となりましたが同年4月に分団の統合整理を行い、八個分団、定員１３１１人の組織になりました。

昭和46年の東村との合併により十一個分団となり、60年には消防団音楽隊が誕生し、以来女性団員も多く活躍しています。その後直近では、平成14年の組織改正で十一個分団、三十七部、定員８８１人となり現在に至っています。

【主なあゆみ】

昭和28年　日本消防協会より竿頭綬を授与される
昭和29年　長野県消防協会より竿頭綬を授与される
昭和56年　台風15号（五六災害）により甚大な被害（土石流により死者10名）
昭和60年　消防団音楽隊第一回発表会（以来定期演奏会として毎年開催）
平成元年　長野県消防技術大会ラッパ吹奏の部で初優勝（以来18年まで出場機会六回すべて優勝し七連覇達成
平成5年　須坂市新消防庁舎竣工
平成10年　自治体消防50周年
須高大検閲式開催
平成18年　長野県消防協会長に塩崎貞夫須坂市消防団長が就任
平成20年　自治体消防60周年式典で日本消防協会長表彰（表彰旗）授与、須坂市ラッパ隊が日本武道館で行われた同記念式典後吹奏を披露

●資料参照「須坂消防のあゆみ」富岡靖門氏著より

ポンプ操法県大会で得たもの

第六分団二部
戸井田（といだ）　尚隆（なおたか）

県大会に出場して、厳しい訓練をやり遂げたことが自分の自信になりました。努力すれば乗り越えられない壁はないと感じました。

この経験は、一生忘れられない宝物です。消防団を通じて得たものはかけがえのないものになりました。

消防団に入団して

第四分団一部
百瀬（ももせ）　真生（まお）

今まで私は消防団の名前しか知らず、どんな活動をしているのか知りませんでした。

今回入団して周りを見た時、地域の安全を守るために活動する消防団の方々の姿が、目に映りました。これからは自分もその一員として地域に貢献できるよう頑張ります。

全国の仲間に刺激を受けて

音楽隊
白浜（しらはま）　美奈子（みなこ）

昨年、熊本県で開催された女性消防団員活性化大会に参加し、全国の女性団員の活動や体験発表を聞きました。

これまでは、音楽隊員として演奏活動だけでしたが、私も活動の場を広げたいと思い、応急手当普及員の資格を取得しました。

須坂市消防団管轄区域

団本部	正・副団長、正・副ラッパ長、音楽隊

分団名	管　轄　区　域
第１分団	（１部）穀町、上町（２部）坂田町、南原町
第２分団	（１部）本上町、上中町、中町、常盤町 （２部）屋部町、小山町、北原町
第３分団	（１部）横町、東横町、立町 （２部）南横町、北横町、馬場町、西町、須坂ハイランド町、田の神町 （３部）八幡町、境沢町
第４分団	（１部）春木町、新町、太子町、相森町 （２部）高橋町、大谷町、本郷町
第５分団	（１部）高畑町、旭ヶ丘町、北旭ヶ丘町、松川町、光ヶ丘ニュータウン （２部）南小河原町、小河原町、新田町 （３部）小島町、豊島町 （４部）相之島町、北相之島町
第６分団	（１部）高梨町、五閑町（２部）塩川町 （３部）沼目町（４部）八重森町 （５部）村山町
第７分団	（１部）井上町（２部）福島町（３部）中島町 （４部）九反田町（５部）幸高町 （６部）米持町（７部）二睦町
第８分団	（１部）下八町（２部）上八町 （３部）野辺町、望岳台 （４部）村石町、明徳町
第９分団	（１部）仁礼町（仙仁、瀬之脇、宇原、西原、浅間塚、福沢）、峰の原高原 （２部）仁礼町（常盤、中村、新田） （３部）仁礼町（関谷、栃倉）
第10分団	（１部）亀倉町、夏端町（２部）米子町 （３部）塩野町
第11分団	（１部）豊丘町、大日向町（２部）豊丘上町

須坂市消防団☆団員募集中

あなたも地域社会に貢献しませんか？須坂市消防団では団員を随時募集しています。
18歳以上の男女で健康な方　市内在住もしくは市内に勤務している方

問い合せ先　須坂市消防本部総務課　TEL：０２６－２４５－４１００
e-mail：s-shobo@city.suzaka.nagano.jp

編集後記

編集委員長
中野分団長会長（第二分団）

創刊号発行では、編集委員の苦労がかなりあったと思いますが、ラッパ隊の自治体消防60周年記念大会での演奏が発刊にあたり大いに華を添えてくれたものと思います。

私も同行してきましたが、塩崎団長以下、須坂市消防団が全国より賞賛を博することとなり、改めて統率する団長に感謝する一時でした。

無事創刊でき、ホッとしています。

【編集委員】

副団長	中澤　寛
ラッパ長	岩崎　仁
音楽隊長	滝澤　学
第１分団長	中野　利昭
第２分団長	中野　隆仁
第３分団長	中村　公彦
第４分団長	小林　貴彦
第５分団長	堤　拓邦
第６分団長	丸山　敏
第７分団長	一色　正弘
第８分団長	村石　英児
第９分団長	山岸　信彦
第10分団長	小山　正宏
第11分団長	大熊　祐一

須坂市消防団広報紙「さくら」創刊号
編集・発行／須坂市消防団（事務局：須坂市消防本部総務課）
〒382-0094 須坂市大字小山1306 TEL026-245-4100 FAX026-248-4460